

彙報

心理學讀書會

一月二十四日午後三時より實驗室内讀書室に於て開會。
○遺傳の中心問題と精神的動作の遺傳の實驗に就て

文學士 檜崎淺太郎君
○Mouvements mimiques ~ Sanshite との關係に就つて
Oesterich, R. d. Allones 及び Harvey の考

福富一郎君

檜崎君は精神の遺傳に就きて深き興味を有し、身體的特徴の實驗遺傳學 (Genetics) に對應する精神的特徴の Genetics 成立に對して深き憧憬を有して居られる。而してこの學の成立を可能ならしむるためには、精神の測定が可能でなくてはならない。講演者は之につきては未だ肯定的確信に達して居ない。けれど精神の表現と見做さるべき精神的動作或は廣義の行動 (Behavior) はある度まで測定が明に可能である、従つて精神的動作或は行動 Genetics の成立は可能である。故に精神の Genetics 成立の階段として先づ行動の Genetics の研究に進むは自然の順序なるべしとの見解から、この方面の實驗的材料を講演者は集めて居られる。

當日の講演は行動の Genetics の研究の準備的知識として身體的特徴の Genetics の中心問題を話された。遺傳の事實につきては昔から學者並に一般の人々が興味を有して居つたが、學術上重

要の問題となしたのはダーウインである。ダーウインに至り遺傳は生物進化の説明に必須の要素と認めらるゝに至つたことから、ダーウインの Pangenesis の要點を述べてダーウインに於ては遺傳の中心問題は環境と生殖細胞並に身體細胞の三方面に跨りて居たが、ワイスマンに至つて先天的變異と後天的變異との差違が峻別せられ、身體細胞と生殖細胞とは全然關係を絶ち、従つて生殖細胞と環境との關係も消滅し、後天性遺傳の問題は自滅して遺傳の中心問題は生殖細胞の Mechanism となつたと論じ、更に生殖細胞の Mechanism の研究としてメンデル、ヨハンゼン、ドブリーヌ等の學説を述べ、生殖細胞の物質的研究としては染色體の研究特にモルガン、ウキルソン一派の研究を紹介して、現今に於ける遺傳の中心問題は主としてこの二の方向に進んで居ると論定せられた。その一は生殖細胞の Mechanism の研究であつて、これは成長せる生物の身體的特徴を出来るだけ單一なる要素に分析しその各要素の遺傳の状態をその子孫に於て研究し、これを材料に正當なる推理と想像とを加へて生殖細胞の Mechanism を想像せんと力めて居る。故にこの方面に於ける重要な問題は單位要素の數並にその結果及び分離の有様である。第二の方向は第一の方向に於て想定したる單位要素の數及び結合、分離の物質的基礎を求むるにありて主として生殖細胞其者に生殖細胞の發達につき之を視覚的に研究して居る。而して身體的遺傳の問題の眞の解決は第一、第二の研究の總合點に見出さるゝであらうと結ばれた。精神的動作の遺傳の實驗につきては米國ヤーキース氏が鼠につきての實驗の方法及びその結果要點を述べられた。

社會學會

十二月二十日。忘年會を兼ねて學生集會所に於て開催。米田講師、巖西學士、其他社會學專攻生全部出席し、晩餐の後守屋徳夫君の大意左の如き講演あり。

ボアス氏著「原始人の心理」梗概

- 一 人種的偏見 文化接觸の重要 身體類型と精神能力との無關係。
- 二 環境の人類々型に及ぼす影響 退化現象。身長及諸類型の變化。家畜の變化現象。
- 三 遺傳の人類々型に及ぼす影響 遺傳の重要。二學說。地方的類型。
- 四 野蠻人及文化人の精神特性 環境及遺傳の影響。研究法。人種と言語 人種と言語及文化との關係範圍。言語に高下なし。
- 五 文化特性の普遍性 普遍的事實。共通原因四說。
- 六 進化論的考察 文化特性の普遍性の假定。其批評と歴史的過程の主張。
- 七 野蠻人の文化特性 野蠻人の文化特性三。傳說的內容の特質。
- 八 概括
- 九 米國に於ける人種問題

一月二十四日。學生集會所に於て開催。米田講師を初め會員約十名出席。「優生學の見地より見たる諸學校の教育」と題する村田

太平氏の講演があつた。講演後、社會學及教育學に關する時事問題に就き各自意見を交換し十時散會した。左に講演の概要を紹介する。

此講演は「優生學評論」に掲載されたる論文によつたので、該論文は米國の「優生教育會」の實行會議によつて承認せられたる ユイゼニツクスレセネ ペラシヤム である。

一體優生學といふのは、如何なる學問であるかといふと、之は「身體的並に精神的の兩方面に於て、子孫の人類の素質を改善し又は滅亡せしめんとする作用の中にて、社會的支配を以て行ひうる部分に屬する該作用の研究である」と定義する事が出来る。扨此論文に於ては優生教育の一部門として、性的衛生學の授けられねばならぬ事を力説してゐるのである。此性的衛生學といふのは、一般の衛生學と同様に健康の保全を以て目的とするのであるが、而も他と異つて直接間接の問題によつて影響される範圍内における、健康の保持を目的とするものである。かくの如くして優生學は未來を目的とし、性的衛生學は現在を目的として、兩者の研究は本質的に同じからざるものであるが、而も性的作用は時代と時代とを連結する環であつて、未來の人類を改善し或は滅亡せしむるに繼ぐべからざる中間物である、従つて性的構造作用並に其衛生法を了解する事は、優生學の研究に固有なる而も高き領分を占有する一部門である。

乍然吾人はかく言へばとて、性的衛生學の教授を、學校の教室内に於て特別なる一題目として教ふる事を主唱せんとするのではない。吾人は學校に於て不變の法則に従ふて不斷に流るゝ生命の

事實についての一般概念を、自然を研究する事によつて授けられるべき事を主張する者である。然しながら、斯の如く、學校に於て願はしからざる事柄に論及する事を避けながら、而も十分な成果をあげんが爲には、何時も教師が生物學性的衛生學及び優生學に就て、十分なる理解をもつてゐる事が必要である。

次に優生學の見地から其學校教育に要求する所は、種族の進歩の爲に市民の各人に要求せられてゐる義務、即個人的犠牲を拂ふといふ道徳性を高める事である。従來道徳教育は主として隣人に對する吾人の義務を教へたが、今後は子孫に對する義務の更に重大なる事が授けられねばならぬ。十二才以下の兒童に對しては優生學の基礎を主として道徳教育によつて與ふべきである。即吾人の行路の未來における窮極の結果に對する責任の感を與へる事である。女の子供には人形を以て遊ぶ事を奨励し以て結婚、兩親、育児等の觀念に親しませるがよい。十二才以上の兒童に對しては範圍を更に擴大して一方に於ては將來の國民たるの誇を感じさせると共に、他方自然法の支配を教へ、又嚴密に科學的方法によつて動植物が多くの子を産む現象をも授けるべきである。

進んで Training Colleges に於ては更に其範圍が擴められねばならぬ。そしてこれらの學校の卒業期、又は在學中と雖一定の年齢に達すれば、教師は個人的に其生徒と性の問題に就て談し合ふがよい。尤も此等の場合に於て教師は十分の注意を以てせねばならぬのであつて、其爲に好奇心を促し、却つて惡に導く的機會となるやうな事があつてはならない。更に高等専門の諸學校に於ても、其教程に含まるゝ進化論、遺傳の法則等を授けるに當つては、

單に科學的事項の探究のみならず、同時に種族的進歩の可能性を進めなければならぬ。

教育學會例會

京都市立第二高等小學校長田村作太郎氏を聘し一月廿九日午後六時大學學生集會所に於て開會、藤井、小西、野上三教授、學生及學外聽講者等二十餘名出席。講演の要旨左の如し。

米國初等教育視察談

氏は先ず劈頭米國婦人の服裝が徒に流行を趨ふことなきを推奨し進んでその教育上の特徴を凡そ六項に分ちて詳説す。

(一) 莫大の費用を投じて米國內に居住する移民を極めて懇切に教育し之れにてアメリカ精神を鼓吹し、速にアメリカ化せんと努むるものゝ如く有名なるデンバースクールの如きは四十三國の學生を收容し、皆周到なる注意と無限の精力を傾注し、飽迄その素志を貫かずんば已まざらんとす。

(二) あらゆる國民を教育して自國に無用有害の徒なからしめんとす。是は一面個人を尊重する精神より來り、他面は不具癡疾者を憐む温情よりなるべく、就中(第一)不良少年の指導は懇切を極め、其重き者は感化院に送り、輕き者及普通に操行不良と云はるゝ如き者は小年裁判所によりて監督し家庭と學校と警察との合力に成る精細なる素行調査を基礎として丁寧適切なる輔導法を實施せり。その裁判は、實見する處によれば所謂裁判にあらずして學校の訓戒に外ならず。(第二)不具者教育遺憾なく完備し、二十歳の女子にて身長二尺に満たざる者に歩行を教へ一週日にて數歩の慢

歩を實行し得しめたる事實、手足を全く缺ける者に頭の運動にてタイプライターの術を學ばしめて成功せる事實、盲にして啞聾を兼ねたる憐しき廢疾者を教へて、指を他人の口唇に觸れて談話し得しめたる事實あり。

されどアメリカインディアンの教育殊に黒人の教育は北方にては白人と差別なきも南方にては全然白人と學校を異にし、自由平等の精神に合致せざるに似たり。

(三) 學校教育の實際的職業的傾向は豫想外の進歩を認むべく、主義として、何時か役に立つべきが故に教ゆるが如き、同一教材を重複して授くるが如きは最も排忌せらる。學校には大抵實際に職業を授くる設備完全し、一校六乃至八の分科を置き、兒童生徒は各其好む處に就きて或は左官或は運轉手或は洗濯等の實地練習を行ふ。故に彼等の工夫力、創造的精神は頗る旺盛にて、現に余の滯留中も一兒童が化學上の重要な發明をなしたる事を聞知せり。

(四) 個性の發展に注意し學級の人員最も多きも四十を越えず或は之を二分若くは三分して個別に教育し、殊に實驗は十二人を限度とす。形式的又は劃一的教育は殊に排斥し、試験の如きも一二科目の缺點は更に之を補習せしむるに止め落第せしめざるが常なり。

(五) 學校と社會教育との連係巧妙を極め講堂は常に公會の用に供し、市民は自由に之れに出入して、備付の用具例へば運動具又は洗濯場を自由に使用するのみならず、教師は時に懇切に其使用方法等を説示するが如き例多し。

(六) 兒童は六、七、八、九歳の間に入學する例多く、州及び學校により同しからず。小學校は八年より六年に短縮され中學校は四年より六年に延長せられ却て好結果を見つゝあり。

氏は更に、米國教授法の特徴を述べ、教科書の内容に言及し、國語問題の輕視すべからざることを力説し、幾多研究の材料を提供し、更に座談に移り、一問一答歡を盡して十時散會せり。

新著紹介

無門關解釋

文學士 紀 半 正 美 著

單傳の佛心、即ち不傳の一著子は永恒に不變である、過去は釋迦未生前より、未來は彌勒成道の後に至るまで、一點の増減もない、上天國の寶座より、下地獄の大釜のどん底まで、一貫して嚴然として宇宙間に獨露して居る、直きにこの佛心を指し箇中に躍入せしむるのが禪宗である、それでこの佛心が即ち宗である、この佛心以外に宗はない、然しながらこの佛心は證して始めて得らるべきものではない、又釋迦の成道によつて始めて生れたものでもない、三世不可得、不生不滅である、森羅萬象、山河天地、衆生佛、皆一心に朝宗し、諸法實相なる宗である、物如即現象なるの宗である、煩惱即涅槃なるの宗である、絕對唯一世界の宗である、西天の四七、東土の二三、脈々相承すと雖も佛心は一體であつて、佛を超え祖を越え、佛を殺し祖を殺し、時間上或は空間上